

坊っちゃん劇場 完熟「一期座」作・演出家

大沢 紘一 さん

(フリーライター・東温市)

愛媛を題材に伊予弁で。
初めてお芝居を見る方に、
笑い感動を与える。



「人生いろいろ五色姫」の稽古に励む「完熟一期座」

2月2日、東温市中央公民館では、坊っちゃん劇場を拠点に活動する劇団「完熟一期座」が、3月に公演する「人生いろいろ五色姫」の稽古に励む。その中心には、台本を見ながら練習を見守る大沢紘一さんの姿があった。

大沢さんは、松山市に生まれ、父の仕事で小学3年生から中学3年生までの6年間を伊予市で過ごした。

「仲間たちと、五色浜で泳いだり、彩浜館や南郡中駅(現在のJR伊予市駅)のまわりで遊んだりしましたね。また、当時は地域を巡回するお芝居があつて、それが好きでよく見に行きましたね。」

お芝居に魅せられた大沢さんは、小説や戯曲集を読むようになり、大学生時代には、自ら劇団を主宰した。

「お芝居を作ったり、演出したりすることは、お話や物語などの原作を、舞台という一つの形にしないとイケない。これは大変なことだけど、ものすごく面白いんですよ。」

現在、大沢さんは、坊っちゃん劇場のオープン2年後に結成された「完熟一期座」の作・演出を手掛ける。

「完熟一期座」は、53〜80歳の地元の方で構成された劇団。明るく・楽しく・分かりやすくをモットーに、愛媛にゆかりのある題材を親しみある伊予弁で演じる。

「一期座の団員は元気ですよ。若い人たちにはないもの

をたくさん持っています。これまでの豊富な人生経験に裏打ちされた味のある演技。協調性、挑戦する気持ちなど、すごく尊敬します。」

3月19・20日の坊っちゃん劇場を皮切りに、26日には伊予市市民会館で公演される、完熟一期座4作目となる「人生いろいろ五色姫」。昭和30年に公演された「幻の五色姫ミュージカル」を、現在、まちづくりに関わる市民が復活させる。その中に、さまざまな人生模様が描かれた、笑いあり、感動ありのミュージカル。

「初めてお芝居を見る方が、おもしろいと思える舞台づくりを心掛けています。地元の方々に見ていただいて、この五色姫伝説をこれからも後世に語り継いで欲しいですね。」

完熟一期座が結成されて5年目。大沢さんは、完熟一期座とともに区切りとなる10周年を迎えられるように、楽しい舞台をつくり続ける。